

THE 40TH JAPANESE ACADEMY OF SENSORY INTEGRATION CONGRESS IN NARA

第40回

日本感覚統合学会研究大会 in 奈良

プログラム抄録集

ことば・コミュニケーション・子どもとの関わり
～科学と臨床～



会期 2023年12月9日(土)・10日(日)

開催方法 現地開催＋一部事後配信

会場 奈良県コンベンションセンター 天平ホール

主催：一般社団法人 日本感覚統合学会

INDEX

大会長挨拶	2
大会案内	4
会場アクセス	6
会場案内図	7
座長・口述発表をされる方へ	8
大会スケジュール(日程表)	10
プログラム	11
抄 録	
特別講演	16
特別企画Ⅰ	18
特別企画Ⅱ	19
教育講座Ⅰ	20
教育講座Ⅱ	21
会長特別企画	24
ロビー企画	25
口述発表	28
次回大会案内	34
実行委員名簿	35

第40回日本感覚統合学会研究大会

大会長挨拶

第40回日本感覚統合学会研究大会

大会長 嶋谷 和之

(株式会社 BASE ともかな FLOW 郡山)

研究大会や講習会などは COVID-19の感染拡大のためオンラインによる開催が続いておりましたが、COVID-19の感染法上の分類が「5類」に引き下げられ、現状の感染状況を鑑みて、第40回日本感覚統合学会研究大会は4年ぶりに現地開催をいたします。開催時点での必要な感染対策を行いながらの開催となりますが、皆様のご協力をお願い致します。また、オンラインの良さのことも考え、全てのプログラムではないものの事後配信を行います。事後配信は専門業者に依頼せずに行いますので、ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

今後の日本における感覚統合理論およびその実践の発展に向けて教育講座Ⅰでは、NPO 法人なごみの杜 代表 土田 玲子先生に『「感覚統合とその実践」第三版から学ぶ—日本における感覚統合理論の発展に向けて—』というテーマでご講演いただきます。

本研究大会のテーマは「ことば・コミュニケーション・子どもとの関わり～科学と臨床～」です。臨床において保護者の方からのご相談には、ことばに関することがあるかと思えます。そのご相談について、どう考えてどのように支援や説明をされてますでしょうか？ A. J. Ayres の感覚統合過程の発達仮説では、話す能力・言語は最終産物に近い段階にあります。では、ことばの基盤となる能力にはどのようなことがあるのでしょうか？特別講演では、生物学的な基盤から言葉についてご研究をされておられる帝京大学 先端総合研究機構 複雑系認知研究部門 教授 岡ノ谷 一夫先生に「言語の起源の生物進化仮説」についてご講演いただきます。特別企画Ⅰでは、発達科学・発達心理学からことばの発達をご研究されておられる武蔵野大学 教育学部 准教授 今福 理博先生に「子どもはどのようにことばを習得していくのか」についてご講演いただきます。

セラピーでは、セラピストがどう考えて遊びや自己自身を活用するかが重要であるかと思えます。また、ひとがひとと何かをするとき、多かれ少なかれながしかのコミュニケーションや関わりが生じるかと思えます。それはセラピーにおいても同様であり、セラピストと子どものダイナミックな相互作用が存在すると思えます。特別企画Ⅱでは、セッションにおけるセラピストの子どもの関わりについて心理学的な観点からご研究されておられる追手門学院大学 経営学部 准教授 長岡 千賀先生に「子どもを応援するとは？—セラピストの関わりの分析—」というテーマでご講演いただきます。特別企画Ⅱに続く教育講座Ⅱ「臨床におけるセラピストの脳内思考(試行)―何を感じ、どう

考え、どうセラピーを展開するか」は、臨床のヒントが得られるような内容です。日々臨床をされておられる姫路市総合福祉センター ルネス花北 森村 慎吾先生、ハートランドしぎさんこどものこころ診療センター 新庄 真帆先生に、事例を通して脳内思考(試行)をお話しいただきます。講師の先生方にはコメントを頂きつつ、子どもとの関わりについて大切にされていることなどをお話しいただき、質疑や意見交換ができればという企画です。講師は、令和健康科学大学 リハビリテーション学部 教授 小西 紀一先生、関西医科大学 リハビリテーション学部 教授 加藤 寿宏先生、愛知県医療療育総合センター 中央病院 小松 則登先生、追手門学院大学 経営学部 准教授 長岡 千賀先生です。特別企画Ⅱと教育講座Ⅱでセラピーを科学的な面とアートな面の両面から考え、セラピーをより深める機会になればと思います。

音楽療法の基礎理論として、感覚統合理論を高く評価し実践されてきたシェリル・ケリー氏が本を出版されました。その本の日本語版出版記念も兼ねて、音楽療法の楽しさと奥の深さを分かち合う企画『—シェリル・ケリー著「シンプルソングで楽しい療育」日本語版出版記念—』を行います。

COVID-19の感染状況が見通せない状況であることから、本研究大会では懇親会はございません。その代替としてはささやかですが、研究大会内においてロビー企画「会場あえる」を行います。(ひとに)会える・(出)会える・(話し)合える・(検討し)合える・(議論し)合える・(深め)合える…。臨床のことや感覚統合のことなど、ちょっとした疑問や相談・気になっていること・議論したいこと・困っていることなどを講師インストラクターや参加者の方々と気軽におしゃべりしてみませんかをコンセプトに企画いたしました。ぜひご活用ください。

研究大会の両日は奈良マラソンの開催日程と重なっており、宿泊予約が取りにくかったと存じます。また、当日は交通の混雑などが予想されます。ご不便をおかけいたします。

奈良には東大寺の大仏があります。東大寺は平和な世の中を願って建てられたと言われていますが、同時に仏教の教理を研究するという役割をもつ学問寺であったと言われています。各宗の研究所が設けられ、奈良時代には六宗兼学、平安時代には八宗兼学の学問寺であったようです。そのことから派生して八宗兼学という言葉は、広く物事に通じる・深くその道に達するという意味にも使われます。本研究大会が感覚統合の八宗兼学の場となればと思います。参加者同士がことばを交わす・コミュニケーションする・関わることを通して、感覚統合やテーマの「ことば・コミュニケーション・子どもとの関わり～科学と臨床～」を広くかつ深めるきっかけや機会になりましたら幸いです。

一つの会場で盛りだくさんな内容になっております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大会案内

- 大会参加費は両日参加で、会員6,000円、非会員8,000円です。
(参加登録期間：～12月17日(日))
- 現地参加の定員(400名)に達し次第、現地参加の受付は終了致します。現地参加の受付終了後は、事後配信の参加のみ受け付けます。
- COVID-19の感染症法上の位置付けが5類感染症になりましたが、異なる状況になれば対応が見直されることを鑑み、レセプション・交流会はございません。

【現地会場に関して】

大会受付

- 開場時間は9日(土)9:00、10日(日)8:45です。
- 当日受付はございませんので、そのままご入場ください。
- 現地参加される際は、事前に参加証を印刷の上、当日会場に必ずご持参ください。ネームホルダーは、会場入り口の付近に置いてありますので、各自お取りいただき、会場内での着用をお願いいたします。ネームホルダーの回収は行いませんので、お持ち帰りください。
- 講師・司会・座長・演者の方は、当日来られましたら、会場入り口付近にあります研究大会事務局にて、受付をお願いいたします。(座長・演者の方は「p8 座長・口述発表をされる方へ」をご参照ください。)
- 「事後配信のみ」で参加申込された方は現地参加はできませんので、あらかじめご了承ください。
- 現地会場での当日の参加申込は行っておりません。事前にホームページからの参加申込をお願いします。

会場について

- 全てのプログラムはメイン会場である天平ホールで行います。
- ロビーにてロビー企画、会場「あえる」を行います。

クロークについて

- 一階会議室105に設置しています。
- 利用時間は、12月9日(土)9:00～17:50、12月10日(日)8:45～16:45です。
- ご利用は手荷物に限らせて頂きます。貴重品はご遠慮ください。

食事について

- メイン会場(天平ホール)にて飲食が可能です。
- 参加登録の際にご予約されたお弁当は研究大会事務局で配布いたします。領収書をもってお弁当を引き換えさせていただきますので、事前に印刷の上、領収書を当日お持ちください。お弁当の引き換えは12月9日(土)12:00～、12月10日(日)12:20～になります。空き容器の回収は配布場所にて承ります。回収は両日ともに13:30までとさせていただきます。
- 隣接の施設に、軽食が取れる場所やコンビニエンスストア等もございます。
- 会場に持ち込まれたお弁当等のゴミは各自でお持ち帰りください。
- ロビー企画の会場「あえる」において、セルフドリンクコーナー(有料)を設置しております。

喫煙所について

- メイン会場の天平ホールを含む奈良コンベンションセンターは敷地内禁煙となっております。敷地内に喫煙場所はございません。敷地内道路等(歩道、バスターミナル、駐車場を含む)での喫煙もご遠慮ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

駐車場について

- 奈良県コンベンションセンターに有料駐車場がございます。

ご注意

- 開催期間中、奈良市内において奈良マラソンが開催されます。会場である奈良県コンベンションセンター周辺、JR 奈良駅周辺、近鉄奈良駅・新大宮駅・西大寺駅周辺はかなり混雑が予想されます。また、周辺では交通規制も実施されます。会場にお越しの際は、余裕をもってお越しくください。

【事後配信について】

- 事後配信は、特別講演・特別企画Ⅰ・特別企画Ⅱ・教育講座Ⅰ・教育講座Ⅱ(事例発表を除く)・会長特別企画です。事後配信は全プログラムを対象としておりません。また、事後配信は対面会場における直撮り録画を配信するため、高画質や高音質ではございません。あらかじめご了承ください。
- 事後配信は現地開催終了後、配信の準備(数日)が出来次第開始いたします。配信終了は12月28日(木)を予定しております。
- 事後配信の準備ができましたら、大会ホームページにてご案内を致します。事後配信の視聴手順は大会ホームページをご確認ください。なお、視聴には参加申込の際に登録したパスワードが必要となります。

【日本作業療法士協会会員の方へ】

- 本学会はSIGに認定された団体です。申請することで、基礎研修ポイントが付与されます。本学会で発表された演者の方は、基礎研修ポイントがさらに付与されます。
- 証明書は当日研究大会事務局にて配布しております。ご入用の方は研究大会事務局までお越しくください。

会場アクセス



会場：奈良県コンベンションセンター 天平ホール

〒630-8013 奈良県奈良市三条大路1丁目691-1

アクセスの詳細は会場ホームページ(<https://www.nara-cc.jp/access/index.html>)をご参照ください。

バスをご利用の方

●ぐるっとバス

【近鉄奈良駅から】

「ぐるっとバス」大宮通りルートで「奈良県コンベンションセンター」下車すぐ

●奈良交通バス

【近鉄奈良駅・JR奈良駅（西口乗り場）・新大宮駅（西向き乗り場）から】

27・28・160・161・162系統……………「奈良市庁前」下車すぐ

【近鉄奈良駅・JR奈良駅（東口乗り場）から】

48・63・72・78・88・98系統……………「三笠中学校前」下車すぐ

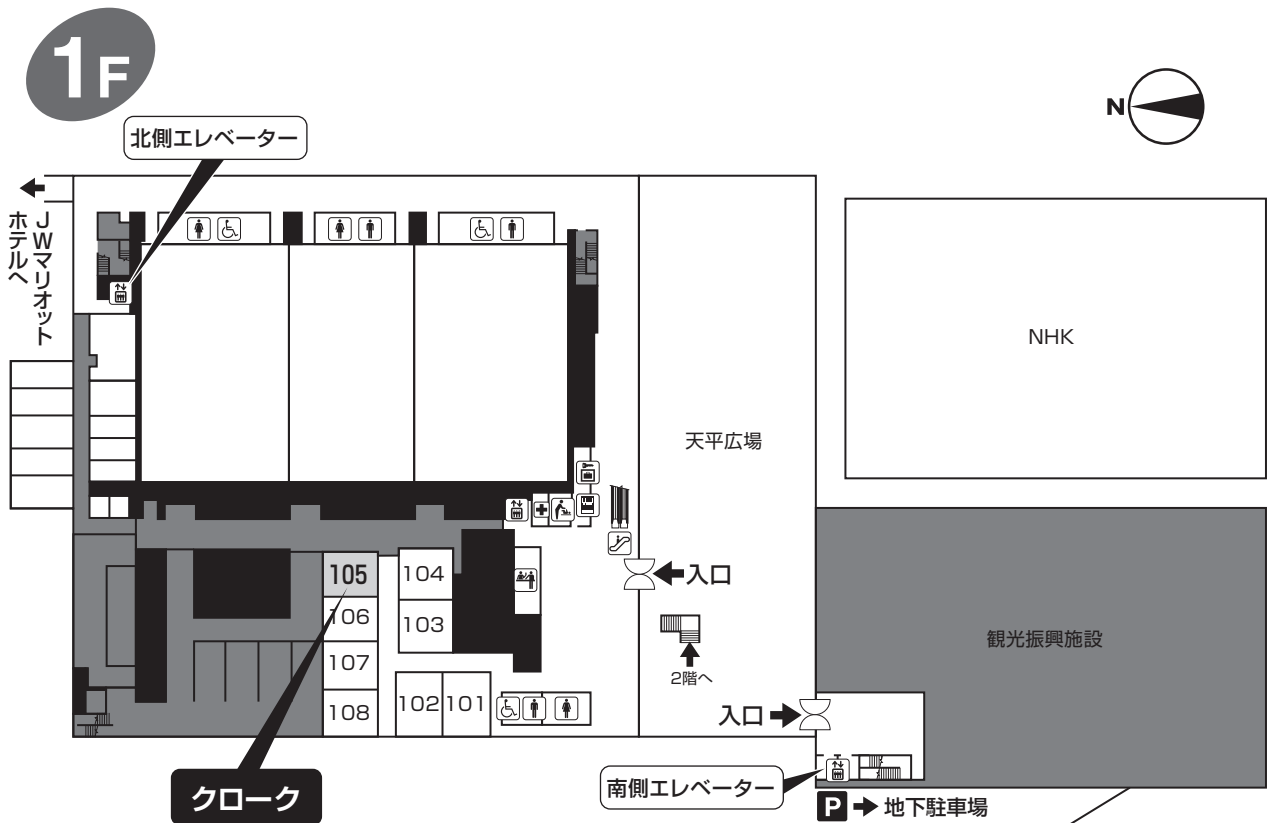
- 大会当日は奈良マラソンが開催されており、それに伴い、一部交通規制等も実施されます。

奈良マラソン 交通規制へのご協力をお願い

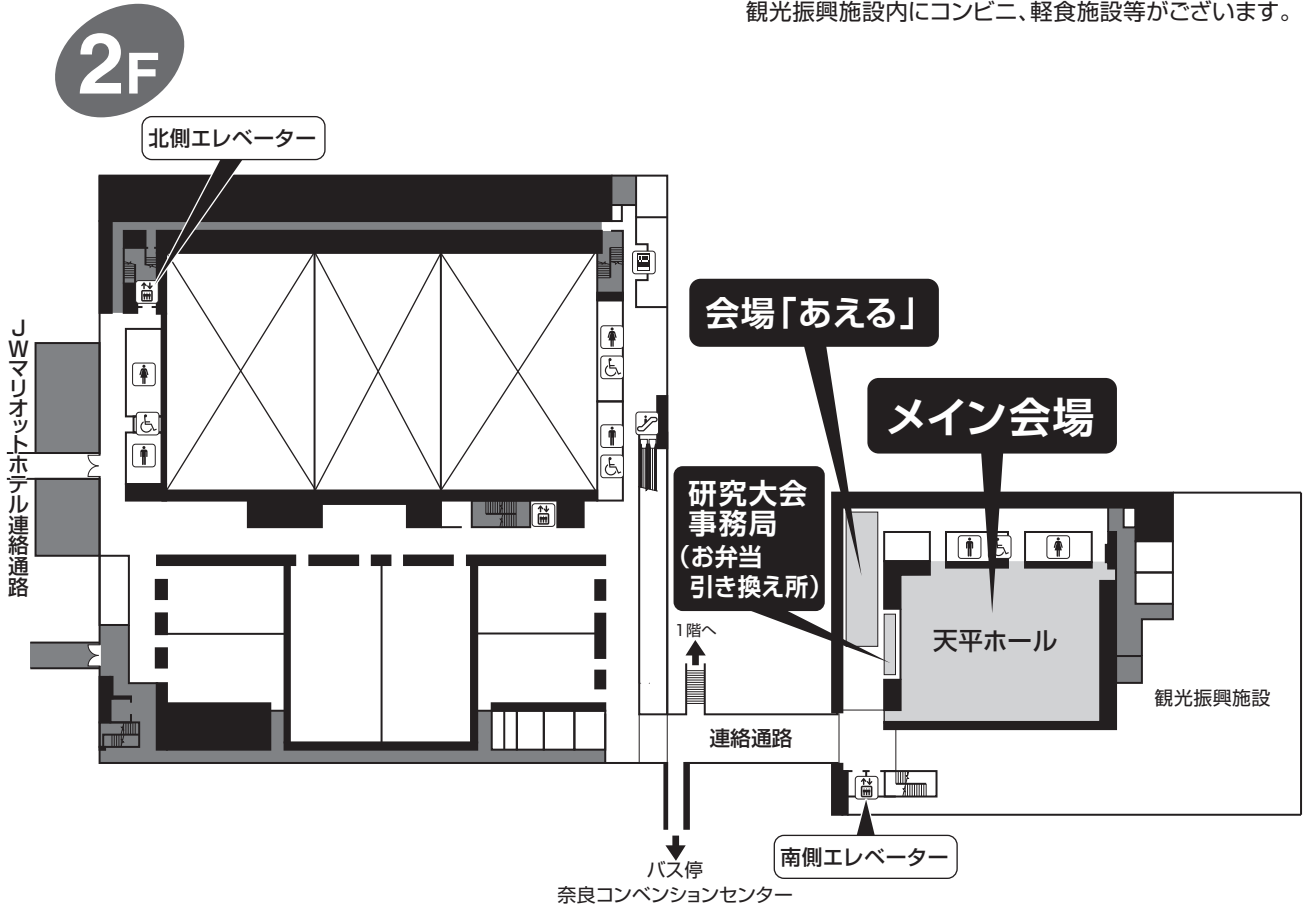
(<https://www.nara-marathon.jp/trafficcontrol.html>)

- 当日の交通規制、バスの運休等の情報については大会ホームページ上でもご案内させていただきます。

会場案内図



観光振興施設内にコンビニ、軽食施設等がございます。



座長・口述発表をされる方へ

【座長の方】

- 座長の受付は、天平ホール入口にて行っております。
- ご担当セッション開始30分前までに受付をお済ませの上、10分前までに次座長席にお座りください。
- 発表時間は、発表10分・質疑応答5分の合計15分です。

【口述発表される方】

1. 参加登録について

- 口述発表の発表者は、研究大会ホームページから参加申込をお願いします。当日、現地での参加申込はできませんのでご注意ください。

2. 発表について

- 発表時間は、発表10分・質疑応答5分の合計15分です。
- 発表は現地会場での口述発表です。リアルタイム配信、事後配信はございません。

3. 発表データの形式

- 当日の発表データは、PowerPointにてご提出いただきます。
- 当日の発表データの作成は、OS標準フォントをご使用ください。

4. 発表データ受付

データの受付は、①事前データ送付＋当日受付 ②当日受付のみの2パターンをご用意しております。当日のトラブルの回避のため、事前データの送付をお勧めいたします。しかし、発表によっては個人情報等が含まれる場合もあると思いますので、ご都合の良い方をお選びください。

①事前データ送付

- 11月20日～12月4日の間に事務局メールアドレス(40si.taikai.nara@gmail.com)までPowerPointのファイルをお送りください。
- ファイルの容量が重い場合にはファイル転送サービス等をご利用された上で、その旨をお知らせください。
- 研究大会側の発表用パソコンで動作するかを確認し、不具合ある場合にはご連絡させていただきます。
- 発表当日10:00までに「発表データ受付」(場所：天平ホール入口)にお越しの上、最終の動作確認をお願いします。その受付方法は下記の②当日受付をご参照ください。

②当日受付

- 発表データの受付は天平ホール入口にて行います。ご発表される方は、発表当日の10:00までにデータ受付をお済ませください。会場運営の都合がありますので、時間厳守をお願いいたします。
- 発表データは、USBメモリでご持参ください。
- USBメモリは、必ず事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。また、保存されたファイルが、作成されたパソコン以外の環境でも動作することを事前にご確認ください。

- PowerPoint のファイルには、氏名 - 所属をファイル名につけてください。
例) 感覚太郎 - ○○大学
- 会場には、発表用のパソコン (OS : Windows 11、プレゼンテーションソフト : Office PowerPoint 2021) およびマウス、プロジェクター、HDMI ケーブル、マイクを準備します。パソコン本体は持ち込めません。
- スライド作成は必ず Windows 版 Microsoft PowerPoint を使用してください
- 発表用データは、研究大会側の発表用パソコンに一旦コピーさせていただきますが、研究大会終了後に削除いたします。

5. 発表について

- 12月9日「口述発表Ⅰ」は11:30から、12月10日「口述発表Ⅱ」は13:15から開始します。
- 開始10分前までに次演者席・次々演者席にお座りください。
- 前演者の発表が始まりましたら、次演者席にお座りください。

6. 個人情報の取り扱いについて

- 事例等を発表する場合、本人・保護者・機関等の了承を得たうえで、個人が特定されることのないよう十分配慮してください。
- 当日提示する資料等には、必ず「本人・保護者・機関等の了承を得て掲載している」旨を明記し、発表時にもその旨を口述してください。
- 写真を掲載する場合は、写っているすべての方の了承を得てください。

7. 問い合わせ

第40回日本感覚統合学会研究大会事務局

40si.taikai.nara@gmail.com

大会スケジュール(日程表)

1日目 2023年12月9日(土)		ロビー
メイン会場 天平ホール		
9:00~17:50 クローク受付(会議室105)		
9:00		9:00~開場
9:30~	開会式	ロビー企画 会場「あえる」
9:45~11:15	教育講座Ⅰ 「感覚統合とその実践」 第三版から学ぶ —日本における感覚統合理論の 発展に向けて— 講師：土田 玲子 司会：新庄 玉恵	
11:30~12:30	口述発表Ⅰ [実践報告] 座長：黒渕 永寿	
昼休憩(60分)		
13:30~15:00	特別企画Ⅰ 子どもはどのように ことばを習得していくのか 講師：今福 理博 司会：嶋谷 和之	
15:20~17:20	会長特別企画 音楽療法の夕べ —シェリル・ケリー著 「シンプルソングで楽しい療育」 日本語版出版記念— 講師：花岡 清美 柿崎 次子 土田 玲子 司会：土田 玲子	

2日目 12月10日(日)		ロビー
メイン会場 天平ホール		
8:45~16:45 クローク受付(会議室105)		
		8:45~開場
9:10~10:40	特別企画Ⅱ 子どもを応援するとは？ —セラピストの関わり方の分析— 講師：長岡 千賀 司会：酒井 康年	ロビー企画 会場「あえる」
10:55~12:25	特別講演 言葉の起源の生物進化仮説 講師：岡ノ谷 一夫 司会：永井 洋一	
昼休憩(50分)		
13:15~13:45	口述発表Ⅱ [研究報告] 座長：日田 勝子	
14:00~16:00	教育講座Ⅱ 臨床におけるセラピストの 脳内思考(試行) —何を感じ、どう考え、 どうセラピーを展開するか— 講師：小西 紀一、加藤 寿宏、 小松 則登、長岡 千賀、 森村 慎吾、新庄 真帆 司会：松島 佳苗	
16:05~16:15	閉会式	

プログラム

特別講演

12月10日(日) 10:55～12:25 メイン会場(天平ホール)

司会：永井 洋一(日本感覚統合学会理事 作業療法士)

言葉の起源の生物進化仮説

岡ノ谷 一夫 帝京大学 先端総合研究機構 教授

特別企画Ⅰ

12月9日(土) 13:30～15:00 メイン会場(天平ホール)

司会：嶋谷 和之(株式会社 BASEかなとも FLOW郡山 作業療法士)

子どもはどのようにことばを習得していくのか

今福 理博 武蔵野大学 教育学部 准教授

特別企画Ⅱ

12月10日(日) 9:10～10:40 メイン会場(天平ホール)

司会：酒井 康年(うめだ・あけぼの学園 作業療法士)

子どもを応援するとは？ —セラピストの関わりの分析—

長岡 千賀 追手門学院大学 経営学部 准教授

教育講座Ⅰ

12月9日(土) 9:45～11:15 メイン会場(天平ホール)

司会：新庄 玉恵(日本感覚統合学会理事 作業療法士)

「感覚統合とその実践」第三版から学ぶ —日本における感覚統合理論の発展に向けて—

土田 玲子 NPO 法人なごみの杜 代表 作業療法士

教育講座Ⅱ

12月10日(日) 14:00～16:00 メイン会場(天平ホール)

司会：松島 佳苗(関西医科大学 リハビリテーション学部 作業療法士)

臨床におけるセラピストの脳内思考(試行) —何を感じ、どう考え、どうセラピーを展開するか—

小西 紀一	令和健康科学大学 リハビリテーション学部 教授 作業療法士
加藤 寿宏	関西医科大学 リハビリテーション学部 教授 作業療法士
小松 則登	愛知県医療療育総合センター 中央病院 作業療法士
長岡 千賀	追手門学院大学 経営学部 准教授
森村 慎吾	姫路市総合福祉通園センター ルネス花北 作業療法士
新庄 真帆	ハートランドしぎさんこどものこころ診療センター 作業療法士

会長特別企画

12月9日(日) 15:20～17:20 メイン会場(天平ホール)

司会：土田 玲子(NPO 法人なごみの杜 代表)

音楽療法のタベ —シェリル・ケリー著「シンプルソングで楽しい療育」日本語版出版記念—

花岡 清美	常葉大学 短期大学部 保育科 兼任講師 音楽療法士
柿崎 次子	ホリスティック音楽療法の会 代表 音楽療法士
土田 玲子	NPO 法人なごみの杜 代表 作業療法士

ロビー企画

12月9日(日) 9:30～17:20 12月10日(日) 9:10～14:00 ロビー

会場「あえる」

口述発表 プログラム

口述発表 I

12月9日(日) 11:30～12:30 メイン会場(天平ホール)

座長：黒瀧 永寿(自治医科大学附属病院 作業療法士)

[実践報告：感覚統合理論を活用した実践報告]

I-1 感覚統合視点を用いた小集団活動における家族支援の効果 —ACHIEVE 評価表の分析から—

佐々木 清子 東京保健医療専門職大学

I-2 「落ち着きのなさ」を主訴に持つ幼児の療育プロセス ～運動機能、感覚統合の視点から～

小泉 雪子 社会福祉法人朝霞地区福祉会 みつばすみれ学園 南西部地域療育センター

I-3 視線が合わないことを主訴とする自閉スペクトラム症児へのかかわり

川村 藍 愛知県医療療育総合センター 中央病院

[実践報告：感覚統合療法による事例報告]

I-4 視覚弁別機能と目と身体の協応の向上により、情緒が安定した自閉症児の一例

田中 亮 総合病院 土浦協同病院

口述発表 II

12月10日(日) 13:15～13:45 メイン会場(天平ホール)

座長：日田 勝子(国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法士)

[研究報告]

II-1 感覚統合の視点を取り入れた保育活動の検証の試み

森本 誠司 京都橘大学 健康科学部 作業療法学科

II-2 青年版・余暇興味プロフィールと健康 そして日本版感覚プロフィール短縮版の関連について

助川 文子 県立広島大学

抄 録

特別講演

特別企画

教育講座

会長特別企画

ロビー企画



言葉の起源の生物進化仮説

岡ノ谷 一夫

帝京大学 先端総合研究機構 教授

略歴

- 1983年
慶応義塾大学 文学部 卒業
- 1989年
米国メリーランド大学 心理学研究科
修了、Ph. D.
上智大学、農林水産省、慶応義塾大学
博士研究員を経て
- 1994年
千葉大学 文学部 行動科学科 助教授
- 2004年
理化学研究所 脳科学総合研究センター
チームリーダー
- 2010年
東京大学 総合文化研究科 教授
- 2022年
帝京大学 先端総合研究機構 教授

主要著書

- 2003年
小鳥の歌からヒトの言葉へ(岩波書店)
- 2008年
ハダカデバネズミ(岩波書店)
- 2010年
言葉はなぜ生まれたのか(文藝春秋)
- 2013年
つながりの進化生物学(朝日出版社)
- 2017年
脳に心が読めるか(青土社)
- 2021年
ことばと心(玉川大学出版局)

言葉とは人間独自のコミュニケーション・思考のための道具である。あるシステムが言葉であると言えるためには、意味を持つ記号(語彙)が非常に多いこと、記号の組み合わせで新たな意味を作ることができること、語彙や規則が学習により獲得されること、いま・ここから自由な情報を伝達できること、の4条件が必要である。これらが満たされなければ、言葉とコミュニケーションを区別できない。そうすると、あらゆる動物が言葉を持っていることになってしまい、意義のある研究ができない。だから、言葉が満たすべき要因は上記のように明示しておく。

しかし言葉も他の形質と同様に、進化の過程で獲得されたものであるから、人間と他の動物との連続性の上に言葉を捉えなければならない。このため、言葉は人間独自であるが、言葉を可能にした機能は動物との連続線上にあるとしてみよう。人間は、それらの機能が偶然うまい具合に結び付いたことで言葉を持つに至ったのだと考えるのだ。

ではそれらの機能はなんだろうか。私は4を仮定している。1) 新たな発声を学習する機能、2) 記号列を分節化(切り分ける)する機能、3) 自分がいる状況を分節化する機能、4) 信号を社会階層の中で適切に用いる機能。これらの機能は、実際、いろいろな動物で独自に進化している。ここでは、それぞれの機能を研究するのにふさわしい動物種を選んで、それらの進化と神経機構を説明してゆく。音声言語に限定して媒体を音として説明するが、手話などの視覚信号も同様に議論できるはずだ。

発声学習：生得的ではない、新たな発声パターンを学ぶ動物種は少ない。1万種以上いる鳥類の約半数、81種の鯨類の多く、220種類の霊長類のうちヒトのみである。個別事例で言えば、これらに加えて2頭のゾウ、1頭のアザラシで発声学習が可能

であったという報告もある。なぜこれらの限定された動物種で発声学習が進化したのかを考える。

音列分節化：音の流れを要素に切り分けて知覚し、運動パターンとして生成する動物種もそれほど多くない。ジュウシマツを例に、この機能について説明する。

状況分節化：ほとんどの動物でそれぞれの環境世界に応じたレベルで状況分節化が見られる。ある状況で適切な行動を選択するという機能だ。脊椎動物では、この機能は脳の海馬と扁桃体が担っていることを示唆するデータが豊富だ。デグーという齧歯類を対象とした実験を紹介し、親和的状況の敵対的状況の分節化機能について説明する。

社会的運用：ハダカデバネズミという真社会性動物を例に、この機能を説明する。ハダカデバネズミは、地下に作ったトンネル住居の中で他個体とすれ違うとき、階級が低いほうが多く鳴き下を通る。このことで階層を固定し無駄な争いを軽減しているようだ。他の社会的動物でも類似した機能が見られる。

以上4つの機能がヒトにおいてどのように統合されたのか。ヒトと近縁のテナガザルを対象とした歌の研究とヒトの乳幼児を対象とした泣き声の研究を統合の例として紹介する。このような生物学的な条件がそろった後で、言葉は文化進化を経て形を変えてゆく。文化進化とは、世代を超えて伝達されることで変化し、人類の認知システムに受け入れやすい形になることである。言葉はこのように生物学的な準備のもと、文化による個別化・複雑化を経て今の形になってきたのだろう。

抄 録

口 述 発 表

I-1 感覚統合視点を用いた小集団活動における家族支援の効果 —ACHIEVE 評価表の分析から—

The effectiveness of family support in small group activities applying sensory integration perspectives : from the analysis of ACHIEVE assessment

○佐々木 清子¹⁾、山田 孝¹⁾、畠山 久司¹⁾、安間 史子²⁾、菅田 優紀²⁾

1)東京保健医療専門職大学、2)船橋市子ども発達相談センター

【はじめに】発達障害児などの支援において、国際生活機能分類(ICF)に基づく活動、参加、環境への支援は重要である。家族は子どもの環境に分類され、家族への支援は子どもの発達に関わる。感覚統合療法は、子どもに直接介入する治療モデルであるが、活動と参加、環境への支援は重要である。本研究では、これまで首都圏のA市で行ってきた感覚統合療法の視点を取り入れた小集団活動における家族支援の効果について報告する。企業との利益相反はない。本研究は東京保健医療専門職大学研究倫理審査委員会の承諾を得ている。

【方法】対象は、発達に気がかりな点がある4、5才児とその保護者で、研究同意を得た12組とした。境界知能1名で、他は未診断であった。保護者に、ACHIEVE評価表への介入前後の記入を依頼した。ACHIEVE評価表は、子どもに期待することなどの自由記載と、家庭での活動、保育園・幼稚園での活動、地域での活動、日課と役割、自信、社会技能、組み立てる技能、身体活動、環境の9領域についての保護者による4段階評価(どの時間にも見られない:1、ある程度の時間みられる:2、ほとんどの時間に見られる:3、すべての時間に見られる:4)で構成される。9領域ごとの介入前後での合計点の比較を、ウイルコクソン符号付順位検定、危険率5%で検定した。

介入内容は以下のとおりである。子ども6名の2グループ(以下G)で構成され、子どもGと家族Gに部屋を分けて実施した。子どもGでは、介入前にJMAPの一部の項目とJSI-Rによる評価を実施し、他部門からの情報と合わせて、運動、感覚(手の操作)、対人交流の視点から目標を設定した。介入は、1回/月で合計5回、①ウォーミングアップ、②運動遊び、③感覚遊び、④クールダウンの流れで、子ども1人に一人の担当で介入した。介入後は担当者から子どもの様子を家族に伝えた。家族Gには、初回に感覚統合療法の視点を説明し、子どもの行動理解と家庭で取り入れら

れる活動を伝えた。2回目以降は、子どもの様子を動画にて家族と共有した後、親の悩みとその助言、家庭で取り入れられたことを聞き、5回目は、子どもの変化と家庭での取り組みの提案を紙面にて家族に伝え、全体を通しての感想を聞いた。

【結果】介入前の保護者の子どもへのニーズは、友達とのコミュニケーション、運動、手先の操作に関連した活動と、排便ができるなどの生活動作の自立であった。介入後に有意に改善が見られたのは、家庭での活動(p値0.034)、保育園・幼稚園での活動(p値0.02)、地域での活動(p値0.048)、日課と役割(p値0.038)の4領域であった。改善した項目は、家庭では、トイレ、食事、片付け、登園準備、行動への切り替えであった。地域での活動では、自転車などの扱いや誕生日などの参加であった。保育園と幼稚園の活動と日課と役割では、鉛筆やハサミなどの扱い、園での活動や行事の参加であった。その他は注意の改善があがった。

【考察】家族への支援には直接的・間接的な家族支援がある。直接的な家族支援では家族の悩みに対し助言を行い、間接的な家族支援は子どもへの介入を通して家族の支援を行う。本研究の結果から、直接的、間接的に家族支援の効果があったと考えられる。有意に改善が見られた4領域についてみると、排泄動作などの生活動作や、コミュニケーションに関する家族への具体的助言を行ったことと、調理活動など家庭でできる活動を家族Gで提案できたこと、さらに運動と感覚と手の操作、対人交流について、子どもの評価から再評価までを職員間で綿密に話し合い、介入したことが、子どもの機能の変化につながったと考えられる。

また、家族の子どもの理解が進み、助言を生活に取り入れやすくするために、感覚統合療法の視点についての説明や、助言が生活に取り入れられたかの家族からのフィードバックや振り返り時間を設定したことが、子どもの機能の改善につながったと考えられる。

【大会事務局】

社会福祉法人 東大寺福祉事業団 東大寺福祉療育病院
〒630-8211 奈良県奈良市雑司町406-1
E-mail : 40si.taikai.nara@gmail.com
担当 阪本 理香子

【学会事務局】

一般社団法人 日本感覚統合学会
〒732-0828 広島県広島市南区京橋町8-10 青木ビル202
FAX : 082-569-5162

第40回日本感覚統合学会研究大会プログラム抄録集
出版：株式会社セカンド／熊本市中央区水前寺4丁目39-11
TEL : 096-382-7793 FAX : 096-386-2025
<https://secand.jp/>